事務事業名		大船渡ブランド化推進事業		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	0:5: 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成12 年度~) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度 ~ 年度 ↓ 全体計画欄の総投入量を記入		予算科目				
	施策名	2:3: 豊かな地域資源を活用した観光の振興				会計	款	項	目	事業
	基本事業名	0:1: 観光客の誘致と観光宣伝の充実				01	07	01	04	05
根拠法令										
所属	部課名	商工観光部 商工観光物産課								
	係名	観光係	電話 内線	114						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 大船渡ブランド化推進会議は、地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討し、その結果を事業展開することで地域活性化を図ることを目的に活動している。市の花「椿」をキーワードに、椿の里づくりを推進し、また、体験型観光を推進するため、グリーン・ツーリズムを通じての受入態勢及び誘致の促進を図っている。 ・「おおふなと椿寿料理」等の普及事業 ・「椿寿料理の日」事業、「おおふなと椿寿弁当」や「黄金弁当」の開発・普及ほか ・体験観光推進事業 ・教育旅行宿泊受入先として、農家へ民泊受入れの説明会を開催し、受入れ民家を対象に各種研修会や打合せ等を実施した。 ・椿の里づくり推進事業 市民に親しまれるとともに市外の方にも周知されるよう、「椿の里 大船渡」シンボルマークの看板やステッカーを製作し、普及に努めた。						全体計画(期間限定複数年度のみ)				
						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	事業費計(A)	0
						人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間	人件費計(B)	0	
								トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) ・椿の里 大船渡シンボルマーク看板 ・おおふなと椿寿料理普及事業 ・グリーン・ツーリズムネットワーク構築、農家民泊の育成等 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同様(シンボルマーク、椿寿弁当、黄金弁当等の普及、宣伝及び体験型観光の普及)		名称	単位
		ア 実施事業数	件
		イ	
		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 ・直接対象 大船渡ブランド化推進会議 ・間接対象 大船渡市民及び市外の住民		対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
		名称	単位
		カ 歳入決算額	千円
		キ 交付率(交付金額/収入決算額)	%
		ク	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ・大船渡ブランド化推進会議の活動が支援される ・市民に地域の資源の素晴らしさが再認識される ・市外の住民に大船渡の素晴らしさが周知される		成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	単位
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) ・大船渡市を訪れてもらう(訪れたいと思ってもらう、再び訪れてもらう)。 ・魅力がPRされ、認知度が高まる。		サ 事業による交流人口	人
		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業内訳	単位	年度							
			17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)		
投入量	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円		150	150	150	150			
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	950	712	2,307	1,661	654	971		
	事業費計(A)	千円	950	862	2,457	1,811	804	971		
	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	4	4		
	延べ業務時間	時間	160	160	160	200	200	200		
	人件費計(B)	千円	640	640	640	800	800	800		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,590	1,502	3,097	2,611	1,604	1,771		
活動指標	ア	件	8	9	7	4	4	7		
	イ									
	ウ									
対象指標	カ	千円	1,196	948	500	450	400	400		
	キ	%	100	100	100	100	100	100		
	ク									
成果指標	サ	人	23	37	40	52	50	50		
	シ									
	ス									

事務事業ID	0442	事務事業名	大船渡ブランド化推進事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	
平成11年度に実施した国土庁地方振興アドバイザー派遣事業の具現化を図るとともに、地域資源を再評価して吸引資源の発見・再生等について情報交換を図りながら、当市の観光物産振興のためのソフト面を中心とした振興策の検討・推進を図るため、平成12年度に開始された。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	
通過型の観光から滞在型・体験型への転換を図るための事業を展開し、観光資源の発掘・創造を行い、一定のメニューを揃えることができた。 平成19年8月31日付で3省(総務省、文部科学省、農林水産省)連携による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が示されてことに伴い、体験型観光や農林漁家民泊等への需要と期待が高まってきている。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	
特になし(市議会において、大船渡ブランドの積極的な宣伝や産業観光への取組みについての質問が寄せられているほか、市政提言では「黄金の国を彷彿とさせるまちづくりについて」の意見・要望がある)	

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] → 地域資源を活用した観光物産事業の振興を図っている大船渡ブランド化推進会議の運営を支援することは、豊かな地域資源を活用した観光の振興を推進している市の政策に直結するものである。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] → 負担金及び補助金以外の収入はほとんどなく、事業費を回収できないため、民間による実施は困難であり、公共の関与が必要となる。観光物産振興による経済波及効果が期待できるため、市が関わることは妥当である。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] → 大船渡ブランド化推進会議は、官民一体となって地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討し、その結果を事業展開することで地域活性化を図ることを目的に活動しており、観光物産振興の推進が図られ妥当である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] → 観光客のニーズに適ったブランド力の向上を図ることによって成果が向上する余地はある。 ただし、長引く景気の低迷から入りこみ観光客数が減少しており、かなり困難なものとなっている。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] → ブランド力の低下によって他の観光地との差別化が行われず埋没し、入込観光客数の減少に拍車をかける。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある → (具体的な手段, 事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] → 農村等における体験型観光の推進による産業活性化をめざしている大船渡市グリーンツーリズム推進協議会と一部の事業が類似している。連携はすでに始めており、一層の連携を図るとともに、組織の統合について検討を始めている。
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] → 事業費の削減が成果の低下に直結する。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] → 観光物産協会等への事務局移管(委託)によって削減は可能であるが、行政の責任をどこまで果たすかの検討が必要。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] → 特定の業種・業者の利益にならないよう、幅広い委員の構成とし、希望者の参入が可能な体制としている。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

<p>(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)</p> <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	<p>(2) 全体総括(振り返り、反省点)</p> <p>当市にある素材を発掘してブランド化し、対外的に売り込むことは、産地間競争が進む中で是非必要であると考え。特に最近の観光客は従来の「物見遊山」的な画一化した旅行から、多様かつ個性的な「目的性の高い旅・テーマ性のある旅」へ、また、「体験」「交流」などを楽しむ滞在型観光へと志向が変化・多様化してきており、当市の特徴ある食や体験観光を推進することは、たいへん効果的であると判断する。</p>									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
<p>(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p>☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統合・連携 ☐ 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>農村等における体験型観光の推進による産業活性化をめざしている大船渡市グリーンツーリズム推進協議会と一部の事業が類似している。連携はすでに行われており、一層の連携を図るとともに、組織の統合について検討を行う。</p> <p>事務局を大船渡市観光物産協会に移管することについて検討を行う。</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「」を記入する。(廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		
<p>(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等</p> <p>観光物産協会の受入態勢。</p>																						

(職名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	商工観光物産課長
-------	----------

<p>(1) 1次評価結果の客観性と出来具合</p> <p>記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)</p> <p>☐ 記述不足でわかりにくい</p> <p>☐ 一部記述不足のところがある</p> <p>☒ 記述は十分なされている</p> <p>評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)</p> <p>☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)</p> <p>☐ 一部に客観性を欠いたところがある</p> <p>☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)</p>																						
<p>(2) 2次評価者としての評価結果</p> <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	<p>(3) 評価結果の根拠と理由</p> <p>事業の意図等を的確に把握しており、適切な評価となっている。</p>									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
<p>(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p>☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>大船渡市グリーンツーリズム推進協議会との一層の連携を深めつつ、組織の統合に努める。</p>	<p>(5) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(4)により期待できる成果について該当欄に「」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「」で記入する。(廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

<p>(1) 政策推進会議等での指摘事項</p>